

を用うる物也、八格戯ともいへり、

〔名物六帖器財三〕八格戯宋雷空山易圖通變兒時於牧豎間見所謂八格戯者其局不過口中加十

然其

〔和漢三才圖會嬉十〕八道行成略○中

一種有六行成六行、碁子白黒各三、走九舍、同士三以相連爲勝、皆兒童之戯也、

〔安齋隨筆後編十四〕一八道行成略○中

相州鎌倉の邊にては、ニツサと云、二人にて三ツ、石を六ツ持なれば、二三といふ心歟、

〔嬉遊笑覽雜四〕

守武千句、きれぐになりぬることのあはれにてむさしをさすとみゆるなりけり、鷹筑波集、善惡に二道かけてつよき人させるむさしを手詰にぞする、又二道かくる人のさい

かくちはながらさせるむさしは上手にて、西鶴一代女に、子ども相手に六ッむさし氣をつくす

ことにもなりぬとあり、馬子六ッにてさすなるべし、ニツサと云も、二三が六なればなり、

〔物類稱呼五〕

八道錢を投てあらそひをなすたはぶれ也、京の小兒、むさしと云、大坂にて、ろくと

云、泉州及尾張、上野、陸奥にて、六道と云、相摸又は上總にて、江戸と云、江戸の町々にたとへて云、信

濃にて、八小路といふ、越後にて、六道路といふ、奥の津輕にをえど、云、江戸にて、きすと云、江戸田

舎にて、十六といふ、

〔嬉遊笑覽雜四〕實曆十三年の畫雙六、大坂版又陸拏と有て、畫は錢をかきたり、是地土に筋引です

る戯なり、ロクドは六道なるを、前と同じ故、あらぬ文字を書たる歟、物類稱呼に、大坂にてロクと

云とある是なり、

〔倭名類聚抄雜四〕牽道、内典云、投壺、牽道、牽道、和名美知、久良閉

牽道

六道